

Minami Kyushu University Syllabus

シラバス年度	2025年度	開講キャンパス	開講キャンパス	都城キャンパス	都城キャンパス	開設学科	環境園芸学科	環境園芸学科	
科目名称	博物館概論					授業形態	講義		
科目コード	710100	単位数	2単位	配当学年	1	実務経験教員	○	アクティブラーニング	
担当教員名	山下 真一							ICT活用	
授業概要	<p>博物館の役割は今日多様化しています。元来、博物館は資料を展示し、それを鑑賞してもらうことで教育機会を提供してきました。しかし、近年は生涯学習意識の高まりや余暇の活用等で博物館が利用されるようになり、その役割は大きくなってきています。博物館概論は、大学における学芸員養成科目として、博物館の基礎を学ぶことが目標とされています。本講座では、博物館学の概要、博物館や学芸員の制度や現状等について、具体的な事例も紹介しながら考えていきます。</p>								
関連する科目	<p>本科目は学芸員資格取得のための必須科目であることから、生涯学習概論、博物館経営論、博物館資料論、博物館資料保存論、博物館展示論、博物館情報・メディア論、博物館教育論、博物館実習と関連し、それらの基礎を学ぶものとなります。</p>								
授業の進め方と方法	<p>本講義では、博物館学芸員として勤務する者が、画像等を使用しながら座学方式で講義を行います。博物館の概要や今日的課題について、都城市の登録博物館であり、かつ公開承認施設である「都城鳥津邸」の事例をあわせて具体的に示しながら紹介しながら学んでいきます。なお、最終講義時にレポート形式の小テストを実施します。</p>								
授業計画【第1回】	<p>第1回 博物館学とは ここでは、まず博物館の目的と役割について紹介し、博物館学が対象とする博物館の定義・目的・機能・組織等について考えます。そして今日の博物館の課題を示し、今後のよりよい博物館のあり方について考えます。</p>								
授業計画【第2回】	<p>第2回 博物館と学芸員 博物館の種類や機能、学芸員の役割は多様です。近年は生涯学習の教育機関としてさらに多くの役割が期待されています。ここでは、制度的な博物館の定義を踏まえた上で、博物館の種類、博物館の現状と課題及び学芸員の活動について紹介します。</p>								
授業計画【第3回】	<p>第3回 欧米における博物館の歴史 博物館はヨーロッパで誕生しました。ここでは、ヨーロッパやアメリカにおける博物館の歴史と現状についてみていきます。これらの地域における公共博物館・美術館の成立、近現代の博物館の展開まで、ミュージアムの歴史と現状を概観した上で、今日の博物館のあり方について考えます。</p>								
授業計画【第4回】	<p>第4回 アジア・アフリカにおける博物館の歴史 アジア・アフリカにおける博物館の歴史と現状を紹介します。アジアの博物館の成立は、欧米による植民地支配の歴史と深く関係しています。また、一方で自国のアイデンティティの確認・発信のための施設として設置され、発展してきました。ここではそれらの歴史について紹介し、博物館の現状と課題について考えていきます。</p>								
授業計画【第5回】	<p>第5回 日本における博物館の歴史 ここでは、日本の博物館の歴史と現状についてみていきます。明治時代から国立博物館の創設、市町村立博物館が多く開設された現代の博物館までの歴史的展開をみながら、現状と課題について考えます。</p>								
授業計画【第6回】	<p>第6回 博物館の展示とそのメッセージ性 博物館の役割で最も中心となるのが展示です。近年、博物館の社会的存在意義が問われ、その役割が大きくなっています。ここでは、博物館の存在を価値づけるメッセージ性について、都城鳥津邸等における実際の展示等を通して紹介します。</p>								
授業計画【第7回】	<p>第7回 博物館展示の方法 博物館の展示は博物館機能の中心的役割を担っています。展示はただ資料を並べるだけでなく、その中には多くのメッセージを伴っています。それをどのように表現するのか、その方法について、実際の展示を具体的に紹介しながら考えていきます。</p>								
授業計画【第8回】	<p>第8回 博物館と調査研究 博物館の役割の中に「調査研究」があります。展示や資料の公開において、その前提として不可欠なのが学芸員による調査研究です。ここでは調査研究の現状と課題について、都城鳥津邸等の事例を通して考えていきます。</p>								
授業計画【第9回】	<p>第9回 博物館の情報とメディア 博物館は、情報を伝える媒体であるメディアを数多く持っています。博物館ではこのメディアを通して、そのメッセージを伝えます。それは保存資料であり、また展示内容を伝える様々な展示補助教材等もメディアのひとつといえます。最近はデジタル技術が進化し、情報を発信するメディアの多様化がさらに進んでいます。ここではメディアについて紹介すると共に、その今後の可能性について考えます。</p>								
授業計画【第10回】	<p>第10回 博物館資料の保存と修復・修理 博物館が保存・公開する資料は、先人から伝えられてきた貴重な文化財であると同時に、地域の歴史や文化を知ることができる人類の財産です。ここでは、それらをいかに守り伝えていくのか、その方法と今後の課題について、都城鳥津邸等の事例を紹介しながら考えます。</p>								

授業計画【第11回】	第11回 文化財の保存と活用 日本では、1950年に文化財保護法が制定されて以来、いくつかの改訂を経て、2018年に文化財の保存と活用のあり方として、地域主体の保存と活用を打ち出した改訂が行われています。近年は、日本文化の発信が求められ、活用主体の展開が求められてきている一方で、災害の頻発から一層保存の必要性を見直す時期にきています。さらにコロナ禍を経験し安全な博物館運営を求められています。ここではこれらの内容及び課題について考えます。
授業計画【第12回】	第12回 博物館と教育活動 近年は、生涯学習意識の高まりや余暇の活用等で博物館が利用されるようになり、その役割は拡大しています。教育を広く「人間形成」と捉えると、博物館の目的は、収集、保存に基礎を置いた、研究、教育機関であり、博物館は人間形成のための教育機関であるという考え方が主流になってきました。ここでは、博物館における教育のあり方について考えます。
授業計画【第13回】	第13回 博物館と連携 博物館ではその運営・活動において、ボランティア等を含む市民やさまざまな機関との連携が大切となってきています。それは、多様な博物館利用者の期待や要望に応えるため、展示企画やイベント、展示案内等、多岐にわたっていることが特徴です。ここでは、その内容について紹介し、なぜ、博物館はさまざまな人々や機関と連携しながら活動していくのか、その意義について考えていきます。
授業計画【第14回】	第14回 国際社会における博物館の連携 近年、我々の社会は地球環境、資源、科学技術のコントロール、自然災害、戦争やテロ、人権問題、文化の多様性といった世界的な課題に直面しています。こうした中、博物館がその社会的存在意義を発信するためにも、それらの課題に向き合い、社会の進むべき方向性を見定めていく施設として貢献していく必要があります。こうしたグローバルな課題に貢献するためには博物館の国際的連携を推進していくことが求められています。ここでは、こうした状況について解説します。
授業計画【第15回】	第15回 まとめ—博物館の現在と未来 本講義全体を振り返り、博物館の現状と今後の課題について示した上で小テストを行います。
授業の到達目標	①博物館とは何か、博物館の現状と学芸員の役割について理解する。 ②世界と日本の博物館の歴史について理解する。 ③博物館にかかわる法律や制度などについて理解する。 ④現在の博物館が抱える課題について問題意識を身につける。
学位授与の方針(DP)との関連	1. 知識・理解を応用し活用する能力-(1)
授業時間外学習【予習】	「講義の最後に次回の講義内容について触れるので、参考図書で予習しておくこと」(30分程度) 「美術館や博物館を見学し、施設の状況や雰囲気を理解しておくこと」(各館1時間程度)
授業時間外学習【復習】	「配付したレジュメを読み直し、授業中のメモ等を整理しまとめる」(1時間程度)
課題に対するフィードバック	質問や疑問に対する回答、書籍や事例の紹介
評価方法・基準	試験またはレポート提出及び講義への取り組み態度での評価とする(100点)
テキスト	その都度、レジュメを配付します。
参考書	鶴見英成編『新訂 博物館概論』(一般財団法人 放送大学教育会、2023年)
備考	